

# 香川ぬいぐるみ病院

代表者 牛尾 真子 (医学部医学科5年)

## 1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、保育園や、大学祭など子どもが集まる場所で、子どもたちに保健教育や模擬診察を行うことで、医療に対する恐怖心・不安感を取り除き、積極的に治療/予防に取り組む気持ちを持ってもらうことを目的としています。また、実施に参加した子どもたちを中心に、家族や地域に予防の輪、健康の輪を広げていくことを目指します。

ぬいぐるみ病院に携わる学生自身は、活動していくうえで正しい知識を身につけ、さらに発信していく力を養っていきます。

## 2. 実施期間（実施日）

平成26年7月1日 から 平成27年3月31日

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業では、地域の子供たちを対象にした保健教育、ぬいぐるみを用いたの模擬診察を通して、予防医学の大切さを知ってもらい、病院や医療従事者への恐怖心を軽減することを目的に、保育園や大学、地域の行事で活動を行いました。

今回、このプロジェクト事業では、保育園、医学部祭、地方祭「まんで願」、学生冬の文化祭でぬいぐるみ病院を開設し、活動を行いました。また、夏にはぬいぐるみ総会に参加し、かがわぬいぐるみ病院の現状を全国に報告するとともに、他大学のぬいぐるみ病院の発想や理念などを聞くことができました。

保育園では、テーマを「手洗い・うがいと風邪」とし、学生による劇と園児と学生による手洗い実習を行いました（8月5日）。学生が手の洗い方を園児に指導し、正しい手の洗い方を知ってもらった後に、なぜ手洗いが必要なのかを劇でわかりやすく解説しました。保育園では、自分たちが想像していたよりも年齢の低い園児が多く、劇がうまく伝わっていないような感触でした。何歳の子どもがどれくらいの理解力があり、どのような形式の保健教育が一番興味を持ってもらえるのかを考えるきっかけとなった実施でした。

（参加学生：医学科 6人、看護学科 2人）



医学部祭(10月12日)では、ぬいぐるみを模擬患者とした診察体験を実施しました。この体験では、子どもに白衣を着用してもらい聴診器やシリンジ(針のない注射器)、ピンセットや舌圧子など、日ごろ病院で使用している医療器具を用いてぬいぐるみを診察してもらいました。カルテを用意し、カルテに記入しながら診察を進めました。また、診察後には写真を撮影し、記念に持ち帰ってもらいました。医学部祭では、約50名の子どもに参加がありました。その際、はじめて模擬診察に参加する学生も多く、対応に困る者も多く見られました。来年の医学部祭では、さらに多くの子どもに参加してもらい、学生も、もっと余裕を持って実施したいと考えています。(参加学生：医学科 13人、看護学科 3人)



地方祭「まんで願」(10月25日)でも模擬診察を行いました。さらに、香川県歯科医療専門学校の学生が実習で作成した紙芝居を借りて、子どもを対象に「虫歯」をテーマにした紙芝居も行いました。模擬診察に参加した子どもは約50名、紙芝居を見てくれた子どもは約50名、保護者は60名ほどでした。「まんで願」では紙芝居の反響が大きく、子どもたちに楽しんでもらいながら歯を磨く重要性を伝えることができたと考えています。次回保健教育を行うときは香川大学の学生で紙芝居を作成したいと考えています。(参加学生：医学科 8人、看護学科 3人)

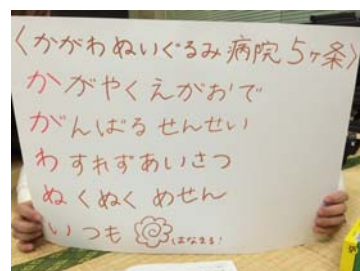


学生冬の文化祭(1月25日)では、商店街の空き店舗の一部を使っ  
ての模擬診察を行いました。診察に参加した子どもは約25名と少  
なかつたですが、新聞、テレビにとりあげていただき、とても良い  
経験となりました。子どもの集まる場所ではない場所での活動で  
は、対象年齢に幅をもたせ、中学生や高校生も対象にできたらな  
お良いのではないかと感じました。また、当日のお昼のニュースに  
とりあげていただいたことで午後から来場してくださった親子も  
あり、宣伝の重要性を再確認することができました。  
(参加学生：医学科 7人、看護学科 3人)

また、ぬいぐるみ総会への参加と勉強会を行いました。

ぬいぐるみ総会には、医学科5年、3年、1年生が計4名参加し、全国のぬいぐるみ病院に携わる学生と交流を行いました。来年のぬいぐるみ総会では、かがわぬいぐるみ病院が1年間で学んだこと、実施したことを発表できればと考えています。

勉強会では、小児の発達段階、行動変容について学生が調べたことを他の学生に発表し、それをふまえてワークショップを行いました（毎回およそ10名前後の参加者）。また、学生の意識を統一するため「かがわぬいぐるみ病院五か条」①かがやく笑顔で②がんばる先生③わすれず挨拶④ぬくぬく目線⑤いつもハナマル を作成しました。この五箇条は笑顔を忘れず、ぬいぐるみ病院に来た子どもは医師になりきってもらい、挨拶と子どもと同じ目線、見守りの目線を忘れないという意味を持っています。この5か条はメンバーで意見を出し合って考えたということもあり、以降の活動への参加率が上昇しました。



#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業により、地域の子どもたちに保健教育、模擬診察の両方を実施することで健康意識の向上や病院への恐怖心の軽減が出来たのではないかと考えています。実際模擬診察をしていると、はじめは聴診器や白衣、注射器を嫌がる子どもたちも、徐々に器具に触ってみることで「もう怖くない!」というように積極的にぬいぐるみに対して診察していました。

また、本学にぬいぐるみ病院の活動を導入したことにより、地方祭での実施やメディアを通して香川大学での取り組みとして、県民や県内の大学生にも興味を持ってもらうことができたと感じています。

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

かがわぬいぐるみ病院に携わった学生は、子どもとの接し方を学ぶだけではなく、地域の方々との交流を自ら積極的に行っていく力を身につけたと感じています。さらに、勉強会でのプレゼンテーションの仕方を学ぶことで、今後の学生生活に役立つスキルを身につけることができたのではないかと思います。

## 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

反省点としては、子どもの対象年齢を決めずに実施すると意思の疎通が難しいということ、さらに実施場所、時間によって対象年齢の幅を持たせる必要があるということを感じたので、参加する子どもの年齢に応じた対応ができるよう心がけていきたいです。

また、今後の計画としては、3月に保育園で模擬診察を行う予定です。

来年度以降の活動をより充実したものにしていくため、今後下級生への積極的な参加を呼びかけるとともに、より活発に活動したいと考えています。また、来年度は今年度行った内容に加え新しい保健教育のテーマにも挑戦していきたいです。

## 7. 実施メンバー

代表者 牛尾 真子(医学部5年)

構成員 田畑 諒(医学部3年) 水井 亮(医学部5年)

作田美喜歩(医学部5年) 佐伯 岳信(医学部5年)

竹内 満理(医学部4年) 樋渡 健悟(医学部4年)

田川 涼葉(医学部4年) 高島 唯(医学部3年)

宇保早希子(医学部3年) 大内 賢治(医学部3年)

田村 瞳(医学部3年) 佐野 美夕(医学部3年)

高橋 桜子(医学部3年) 豊柴めぐみ(医学部3年)

岩永望由季(医学部3年) 都野森紗希(医学部3年)

酒井 善紀(医学部2年) 苅田 咲子(医学部2年)

佐藤 凜彩(医学部1年) 北中真里奈(医学部1年)

小坂 麻耶(医学部1年) 武田真由子(医学部1年)

柳川 祐菜(医学部1年)